第2章　ミネベアミツミの価値創造ストーリー

1. ミネベアミツミの歩み

オーガニック成長 × M&Aで成長

当社は1951年7月、日本で初めてのミニチュアベアリング専業メーカーとして東京都板橋区に誕生しました。終戦後、満州から帰国した旧・満州飛行機製造の技術者が航空機産業の発展に夢と情熱を託して立ち上げた会社でした。

それから70年以上がたち、電子機器分野に進出するとともに、ミツミ電機、ユーシン、エイブリックとの経営統合を経て、ボールベアリングからモーター、センサー、アクセス製品、半導体に至るまで、世界でも類をみないユニークな事業ポートフォリオを持つ「相合（そうごう）」精密部品メーカーへと成長しました。

私たちは、オーガニック（自律）成長とM&Aの両輪で成長を続け、世界のものづくり・皆様の暮らしをお支えする新しい価値の創造に取り組んでいきます。

1951年創業

東京都板橋区小豆沢において、わが国初のミニチュアベアリング専門メーカー「日本ミネチュアベアリング株式会社」を設立

軽井沢工場（日本）

1963年
埼玉県川口市から工場を移転し、長野県御代田町で
全世界のマザー工場となる軽井沢工場にて操業開始

1970

オーガニック成長

1972年　シンガポールに初の海外自社工場を建設

M&A

1971年　米国で当社初の海外生産を開始

1974年　電子機器分野（計測機器・現 センシングデバイス事業部）に進出

1980

1980年　アユタヤ工場を設立
グループ最大拠点となるタイに初進出

1984年　タイで2番目の拠点となるバンパイン工場を設立

1986年　浜松工場を設立
電子機器分野の開発を拡大

1988年　タイ ロッブリ工場を設立
電子機器分野の生産を拡大

1994年　ベアリングやファンモーターを部品から一貫生産する上海ミネベア(中国で初の自社工場)を設立

1980年　小径サイズのボールベアリングの生産を開始

1985年　米国のベアリングメーカーを買収
米国市場への供給を拡大

1988年　英国のロッドエンドベアリングメーカーを買収
欧州市場への供給を拡大

1990年　ドイツにHDD用スピンドルモーター開発会社を設置

2000

2010年　カンボジアで工場を設立し、翌年に生産を開始
リスク分散、生産の拡大とコスト低減

2010年　蘇州工場を設立し、LEDバックライトの生産を拡大

2018年　スロバキア コシツェ工場にて生産を開始
欧州市場への供給を拡大

2010年　ブラシレスモーターの生産を開始
モーターの製品ラインナップを拡大

2015年　ドイツの大手計測機器メーカーを買収
欧州やインドでの生産と供給を拡大

2017年　ミツミ電機と株式交換により経営統合を実施
機械・電子技術と制御技術を融合した「エレクトロ メカニクス ソリューションズ®」プロバイダーとして、各事業の成長を加速

2019年　株式公開買付けによりユーシンと経営統合を実施
新たな「相合」力により、自動車・住宅設備・産業機械分野でのシナジー創出

2020

2020年　秋田事業所に新社屋が完成
車載事業の開発を強化

2021年　タイのバンパイン工場敷地内に、多目的新工場建屋を建設
将来のさまざまな製品の生産能力を増強

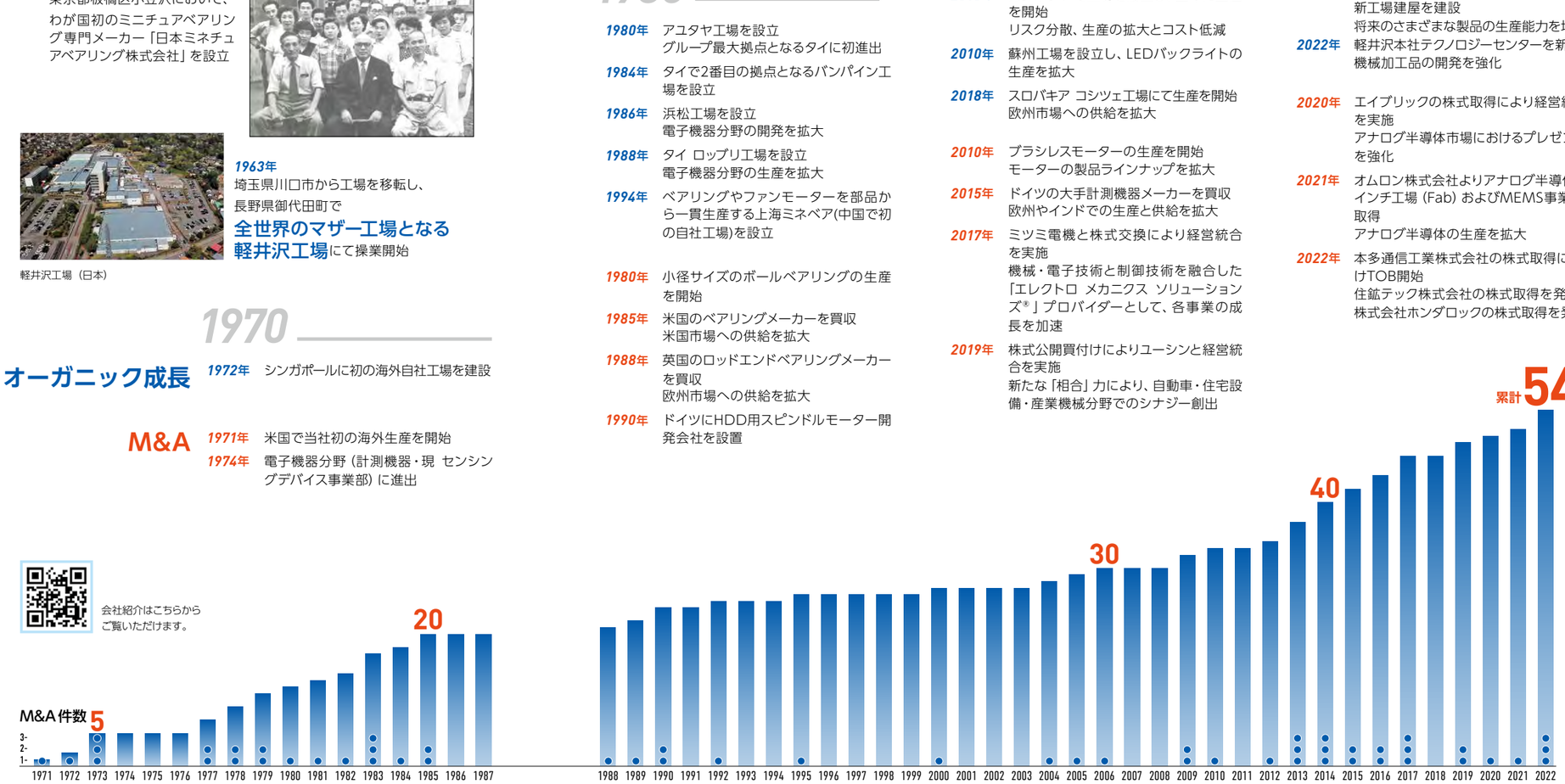
2022年　軽井沢本社テクノロジーセンターを新設
機械加工品の開発を強化

2020年　エイブリックの株式取得により経営統合を実施
アナログ半導体市場におけるプレゼンスを強化

2021年　オムロン株式会社よりアナログ半導体8インチ工場（Fab）およびMEMS事業を取得
アナログ半導体の生産を拡大

2022年　本多通信工業株式会社の株式取得に向けTOB開始
住鉱テック株式会社の株式取得を発表
株式会社ホンダロックの株式取得を発表

会社紹介はこちらからご覧いただけます。



1951年～ 創業期

創業期からの不変的な考え方
「超精密機械加工技術」「大量生産」

当社は、ミニチュアボールベアリングの商品力強化のため創業期から高品質、低価格を追求してきました。1964年、軽井沢工場に最新の機械設備を導入するとともに、海外の技術者から指導を受けたことで、技術レベルが劇的に向上。海外への輸出も増加し売上が拡大したことで、軽井沢工場に次々と新鋭の機械を導入し、「超精密機械加工技術」「大量生産」で競争力を高めていきました。

1970年～ 多角化

米国 REED 工場
（現 NHBB チャッツワース工場）

海外進出と多角化で事業領域を拡大

ベアリングが将来なくなるかもしれないという危機感から、1973年にモーター事業を開始し、1980年代には半導体事業や電子機器部品事業へ進出しました。

1971年には米国REED工場を買収し、海外生産を開始。1972年にはシンガポール、1980年にはタイで自社工場の海外生産も開始しました。国内外のM&Aも積極的に実施し、技術者獲得や生産能力増強を実現した一方で、化粧品や着物の訪問販売会社、養豚関連事業会社といった製造業以外の企業も買収し、事業規模を拡大していきました。

1990年～ 製造業への回帰

事業の選択と集中を進め、経営をスリム化

1990年代に入ると多角化のマイナス要因が膨らみ始めたため、製造業と関連が薄い事業の整理を進めるとともにベアリングや電子機器といった本業に経営資源を集中し、収益力の回復をはかりました。中国・上海でボールベアリングの一貫生産をスタート。高精度なHDD用部品の生産を本格化するなど、「超精密機械加工技術」「垂直統合生産」をさらに磨き上げました。

2000年～ 「相合」精密部品メーカーへ

シナジーを追求し、会社としての強さを確固たるものに

2000年代に入り、世の中の技術の変化はより一層激しさを増し、IoTが当たり前になる時代がやってきました。当社はカンボジアやスロバキアなど生産拠点のさらなる拡充につとめるとともに、M&Aを加速。2009年に現社長・貝沼が就任後、23件のM&Aをおこない、2017年にはミツミ電機と経営統合し、社名を「ミネベアミツミ株式会社」に変更しました。

2000年代はリーマンショックや米中貿易摩擦などの金融危機、東日本大震災、タイ洪水、新型コロナウイルスの感染拡大などさまざまな災害が世界を襲いましたが、当社の多角的な事業ポートフォリオの構築とリスク分散体制が強みを発揮し、逆境を力強く乗り越え、「相合」精密部品メーカーとして成長を続けています。